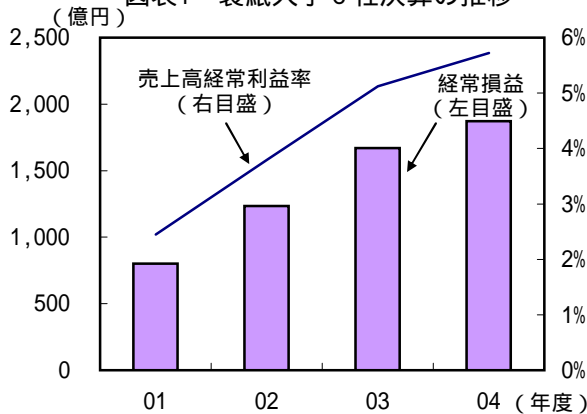




資源逼迫に対応し効率化を進める紙・パルプ業界

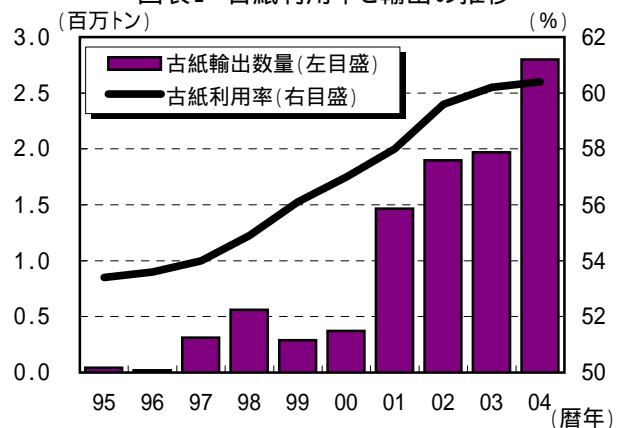
- ・大手製紙会社の収益は改善傾向にある。各社が**効率化のため拠点集約化や環境対応投資を進めてきた効果が漸く顕在化した**ともいえる。
- ・ただし中国製紙産業の急成長に伴い、資源問題が懸念される。製紙会社はこれまで古紙利用設備建設などを進めることで原料コストを削減してきた。その結果、**古紙利用率は6割にまで上昇したが、足元では古紙の中国向け輸出が急増したことにより原料コストが高止まりしている**。さらには中国製紙産業の急成長などをうけ、木材チップなどの原料や重油、石炭などの燃料コスト上昇も懸念されている。
- ・輸入紙との競合も懸念材料である。昨夏、製紙会社が**原燃料コスト上昇を理由に印刷用紙等の価格値上げを打ち出したが、これと同時に輸入紙流入が急増してきた**。特にPPC用紙はインドネシアや中国からの輸入増加により、2004年の輸入品シェアは30%を超えた。
- ・今後わが国製紙会社は、国内ではバイオマス資源の有効活用などにより燃料コスト削減を進めるとともに、さらなる**業界再編に向けて動いている**(これまで国内再編は板紙部門、2強グループが中心だったが、**中越パルプ工業と三菱製紙が合併を発表するなど新たな動きもみられる**)。また海外においても、自前のチップ確保のため植林地拡大などを計画している。

図表1 製紙大手6社決算の推移



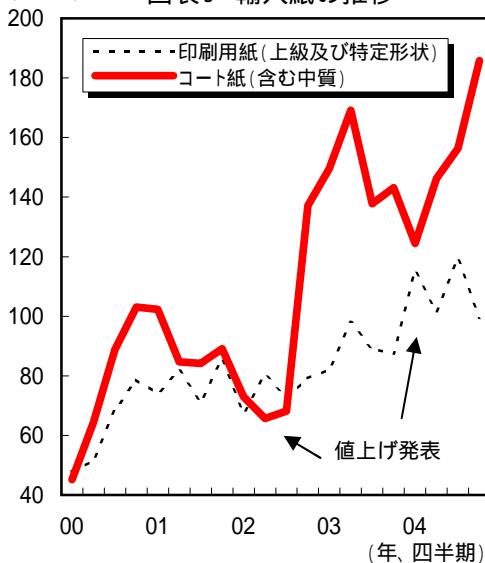
(備考) 1. 各社有価証券報告書、決算短信資料により作成。
2. 大手6社は、王子製紙、日本製紙グループ、大王製紙、三菱製紙、北越製紙、中越パルプ工業を指す。
3. 2004年度見通しは2004/12月期時点の見通し。

図表2 古紙利用率と輸出の推移



(備考) 財団法人古紙再生促進センター資料により作成。

図表3 輸入紙の推移



(備考) 1. 財務省「貿易統計」により作成。
2. 印刷用紙(特定形状)がPPC用紙にあたる。

図表4 わが国紙業界の主たる合併事例(1995年以降)

年月	会社	合併内容
96/10	王子製紙	新王子製紙と本州製紙が合併
97/10	日本板紙	日本紙業と十條板紙が合併
99/4	レンゴー	セツツを合併
99/10	高崎三興	高崎製紙と三興製紙が合併
01/3	日本ユニパックホールディング	日本製紙と大昭和製紙が事業統合、持ち株会社を設立
4	日本紙共販	日本製紙と大昭和製紙の共販会社
4	日本板紙共販	日本板紙、大昭和製紙、東北製紙の出資による段ボール原紙を主体とする共販会社
7	王子板紙	王子製紙傘下の板紙企業の段ボール原紙を主体とする共販会社
02/10	王子板紙	王子板紙、王子製紙段ボール原紙生産部門、グループの段ボール原紙生産会社である高崎三興、中央板紙、北陽製紙が合併
03/4	日本製紙	日本製紙、大昭和製紙、日本紙共販会社が合併
4	日本大昭和板紙	日本板紙、大昭和製紙(吉永)、東北製紙、日本板紙共販による生産子会社をもつ統合会社
05/2	三菱中越製紙(仮)	中越パルプ工業と三菱製紙が合併予定

(備考) 1. 日本製紙連合会資料により作成。
2. 2004年10月、日本ユニパックホールディングは「日本製紙グループ本社」に商号を変更した。

【調査部(産業調査担当) 埴 賢治、土居 あき子】

お問い合わせ先 日本政策投資銀行調査部

Tel: 03-3244-1840

E-mail: report@dbj.go.jp